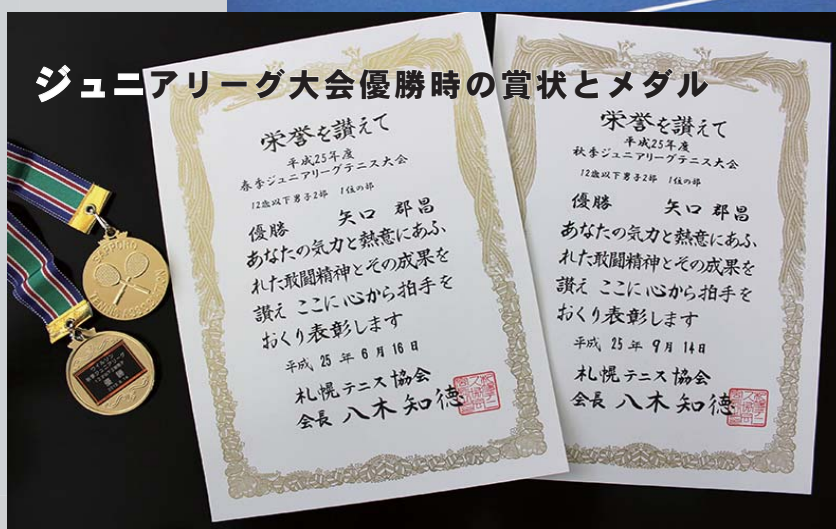


やぐち
矢口
くにあき
郡昌さん



自分で決めた道だから
絶対に諦めない！！



松岡修造さんが目標

今年、札幌市で開催され200人以上が参加した、ジュニアリーグテニス大会12歳以下男子の部(2部)にて、春と秋、連覇を成し遂げた1人の小学生がいます。将来、プロテニスプレイヤーを目指す当別小学校6年生の矢口郡昌さんにお話を伺いました。

4年生

までは水泳を習っていました。違うスポーツをやってみたいと思い、お母さんに相談したら、テニスを勧められました。本当はサッカーがやりたかったけど、初めは、すごく嫌で何度もやめたいと思いました。テニスそのものが分からなくて、いつも練習場に行くのがすごく嫌だった。なかなか上手くなれなくて、試合に出ても1ゲームも取ることが出来ず、ストレート負けの連続で、悔しくて何度も泣いてしまいました。でも何度も練習していくうちに、自分が思うようにボールを打てるようになり、テニスが楽しくなってきたんです。そして5年生の時に出場した試合で初めて1ゲームを取りました。勝つことよりも1ゲー

ム取れた事がすごく嬉しかった。それがきっかけで、もっと勝ちたい、もっと上手になりたいと思い、お母さんをお願いして練習回数を増やしてもらいました。いまは3つのスクールに通い、年上の中学生や高校生と練習しています。力の差はあるけど、テクニックで負けないよう頑張っています。ほぼ毎日、練習なので、友達と遊ぶ時間がほとんど無いです。でも、僕はテニスをもっと上手になりたいので、友達と遊ぶ時間は諦めました。たまに羨ましいな…と思うこともあるけど。練習に行く前には宿題や勉強もしています。それが親との約束です。テニスと勉強を一緒に頑張るのは大変だけど、頭を使うスポーツなので、勉強もしないとテニスは上手にならないと、同じスクールに通っている先輩から教えてもらってからは、必ず宿題を終わらせて練習に行くようになりました。

得意なサーブはボールに回転をかけないフラットというサーブです。スクールに行けない時には、ラケットと

同じ大きさのフライパンを持って、家で練習した事もありました。何度も何度も練習して、やっと自分の得意技が完成しました。これからもサーブに磨きをかけていきたいと思っています。

将来はもちろん、プロテニスプレイヤーになることが夢です。目標にしている選手は、松岡修造さんです。すごく大好きで、ラケットやウエア、シューズなどは全て、松岡修造さんが使用していたスポーツブランドを愛用しています。僕も松岡さんに負けないくらいのサーブが打てるように早くなりたいです。

取材時に同席していたお母さんは、「当別町は、無料で使用できるコートが3箇所もあり、テニスをする環境が整っており、非常に良いと思う。もっとテニスが普及してくれると嬉しいですね。」と話していました。7年後の2020年には、東京オリンピックが開催されます。コート上に郡昌さんの勇姿が見れる事を期待したいと思います。(10月8日取材)